

湖北広域行政事務センター
新一般廃棄物処理施設整備運営事業

審 査 講 評

令和5年1月17日

湖北広域行政事務センター
新一般廃棄物処理施設整備運営事業者選定委員会

湖北広域行政事務センター新一般廃棄物処理施設整備運営事業者選定委員会（以下「選定委員会」という。）は、湖北広域行政事務センター新一般廃棄物処理施設整備運営事業（以下「本事業」という。）に関して、優先交渉権者選定基準（令和4年4月11日公表）に基づき、提案内容等の審査を行いましたので、審査結果及び審査講評をここに報告します。

令和5年1月17日

湖北広域行政事務センター
新一般廃棄物処理施設整備運営事業者選定委員会
委員長 武田 信生

目 次

第 1 章 選定委員会の構成及び開催経過	1
1 選定委員会の構成	1
2 選定委員会の開催経過	1
第 2 章 審査の方法	2
1 審査の流れ	2
2 審査の内容	3
第 3 章 審査の結果	7
1 参加資格審査	7
2 提案審査	8
第 4 章 審査の講評	11
1 各審査項目の講評	11
2 審査の総評	15

第1章 選定委員会の構成及び開催経過

1 選定委員会の構成

区分	氏名	所属等
委員長	武田 信生	京都大学名誉教授
副委員長	及川 清昭	立命館大学理工学部特命教授
委員	鈴木 康夫	滋賀大学経済学部教授
委員	高岡 昌輝	京都大学大学院工学研究科教授
委員	吉原 福全	立命館大学名誉教授
委員	大塚 義之 (令和4年3月4日まで)	長浜市副市長
	江畑 仁資 (令和4年6月8日*より)	
委員	要石 祐一	米原市副市長
委員	川崎 達雄 (令和4年3月31日まで)	湖北広域行政事務センター総務課長
	八上 弥一郎 (令和4年4月1日より)	湖北広域行政事務センター調整官

※ 3月5日から6月7日までは、長浜市副市長不選任

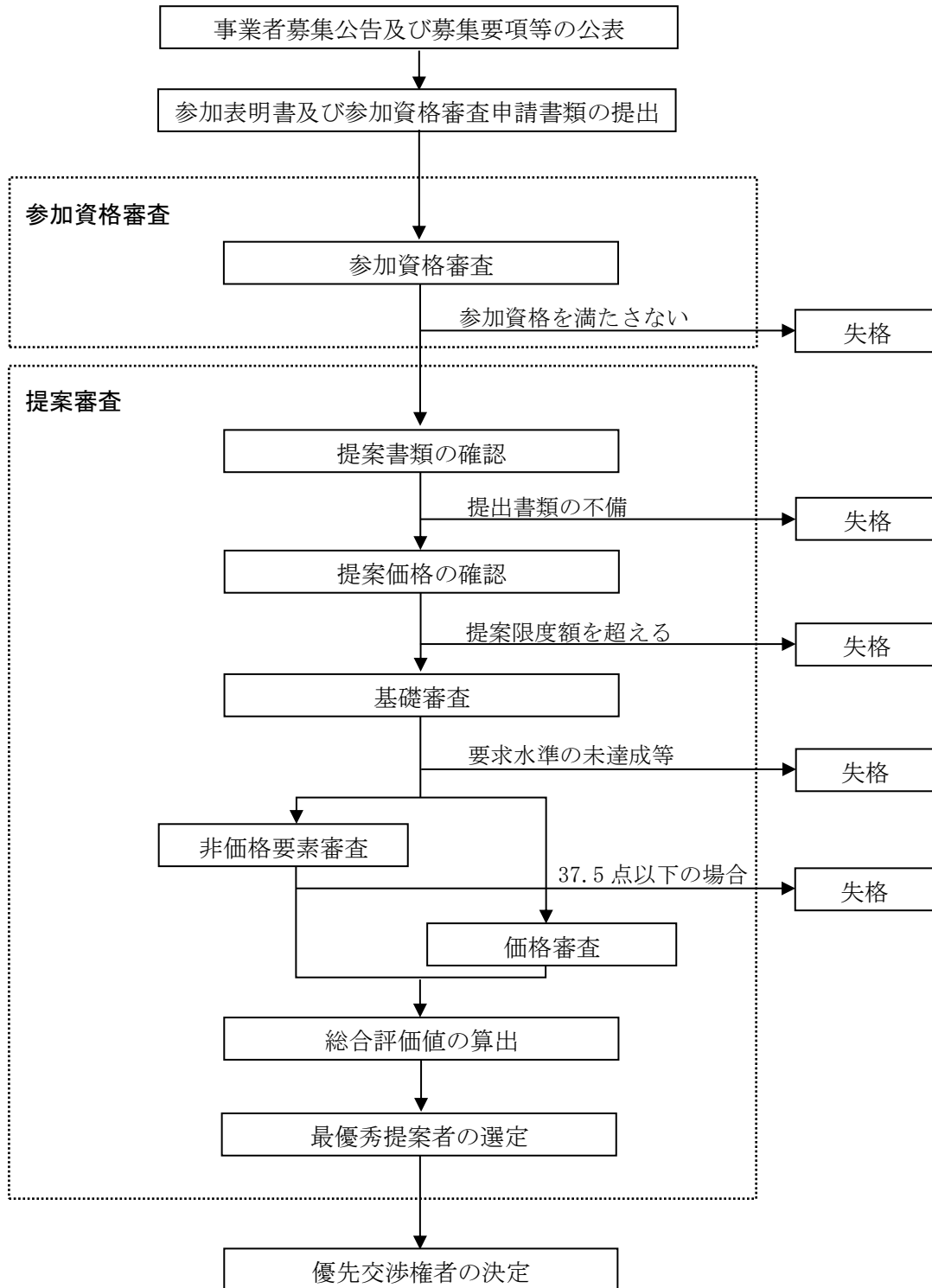
2 選定委員会の開催経過

日程	会議名	主な議題等
令和3年11月11日(木)	第1回選定委員会	委員長、副委員長の選出、会議の公開等、事業内容の確認 など
令和4年2月3日(木)	第2回選定委員会	特定事業の選定、優先交渉権者選定基準、実施方針等に関する質問・意見の状況 など
令和4年10月25日(火)	第3回選定委員会	参加資格審査結果の報告、提案審査[基礎審査等確認結果の報告、提案概要について、事前ヒアリング事項、提案に関する非価格要素審査(技術ヒアリング)の進め方] など
令和4年11月16日(水)	第4回選定委員会	技術ヒアリング(プレゼンテーション・質疑応答)、意見交換 など
令和4年12月6日(火)	第5回選定委員会	最終審査(意見交換、最優秀提案者の選定)、審査講評(案) など
令和5年1月10日(火)	第6回選定委員会	審査講評に関する審議 など

第2章 審査の方法

1 審査の流れ

優先交渉権者決定までの審査の流れは、次のフローに示すとおりである。



2 審査の内容

1) 参加資格審査

湖北広域行政事務センター（以下、「センター」という。）は、応募者から提出される参加資格審査に関する書類をもとに、応募者が満たすべき参加資格要件について審査する。参加資格要件を満たさない場合は、失格とする。

2) 提案審査

(1) 提案書類の確認

センターは、応募者に求めた提案書類が全て揃っていることを確認する。提出書類に不備のある場合は、失格とする。

(2) 提案価格の確認

センターは、提案金額書に記載された提案価格が提案限度額を超えていないことを確認する。提案価格が提案限度額を超える場合は、失格とする。

(3) 基礎審査

センターは、提案書類に記載された内容が、基礎審査項目を満たしていることを確認する。提案内容が基礎審査項目について1項目でも満たさない場合は、失格とする。

基礎審査項目は、以下のとおりである。

審査対象	基礎審査項目	対応様式
共通事項	<ul style="list-style-type: none">提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案または提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。提案書全体について、様式集に従った構成（項目の構成、枚数制限等）となっていること。	すべての様式
基本方針に関する提案書	<ul style="list-style-type: none">各様式に対して記載された提案の内容が、要求水準を満たしていること。	様式 6-1～6-4
設計・建設及び運営に関する提案書		様式 7-1～7-21
事業計画に関する提案書	<ul style="list-style-type: none">各様式に対して記載された提案の内容が、要求水準を満たしていること。リスク分担に関し、募集要項等で示したリスク分担との齟齬がないこと。	様式 8-1～8-9
設計図書	<ul style="list-style-type: none">記載された提案の内容が、要求水準を満たしていること。	—

(4) 非価格要素審査

選定委員会は、応募者から提出された提案書類の各様式に記載された内容について審査を行い、審査項目ごとに得点化する。得点の計算については、次に示す5段階評価に基づき選定委員会の各委員が個別に評価を行い、その平均値を得点として付与する。得点は小数点第三位以下を四捨五入した値とする。

なお、非価格要素審査の得点（配点 150 点）が 37.5 点以下の場合は、失格とする。

【審査項目の判断基準】

評価	判断基準	得点化方法
A	提案の効果に非常に大きな期待ができる	各項目の配点×1.00
B	提案の効果に大きな期待ができる	各項目の配点×0.75
C	提案の効果に期待ができる	各項目の配点×0.50
D	提案の効果は想定どおり	各項目の配点×0.25
E	提案の効果にあまり期待ができない	各項目の配点×0.00

ただし、次の審査項目については、提案数値に基づき、各々の算定式により得点を付与する。得点は小数点第三位以下を四捨五入した値とする。

① 地域への貢献

地元企業への発注予定金額(様式 6-3「ウ 地元発注予定」の「(1) 設計・建設期間」と「(2) 運営期間」の発注予定金額の合計)の提案に基づき、次のとおり得点化する。

$$\text{地元発注予定金額(税抜)} \div (25 \text{ 億円/点})$$

※ただし、6 点を上限とする。

② 稼働実績件数

指定する施設の稼働実績件数及び焼却施設の解体撤去工事实績件数の提案に基づき、次のとおり得点化する。

ア) 設計・建設実績

(ア) 熱回収施設(焼却施設)

件数	得点
11 件以上	1 点
8～10 件	0.75 点
5～7 件	0.5 点
2～4 件	0.25 点
1 件	0 点

(イ) 熱回収施設(バイオガス化施設)

件数	得点
3 件以上	1 点
2 件	0.5 点
1 件	0 点

(ウ) 汚泥再生処理センター

件数	得点
11 件以上	0.50 点
8～10 件	0.375 点
5～7 件	0.25 点
2～4 件	0.125 点
1 件	0 点

イ) 解体撤去工事実績

件数	得点
3 件以上	0.50 点
2 件	0.25 点
1 件	0 点

③ 発電量・売電量

焼却施設の発電量・売電量とバイオガス化施設の発電・売電量の配点を以下のとおり設定する。

【焼却施設の発電量・売電量の配点】

焼却施設の最高提案売電額 ÷ (焼却施設の最高提案売電額 + バイオガス化施設の最高提案売電額) × 3 点

【バイオガス化施設の発電・売電量の配点】

バイオガス化施設の最高提案売電額 ÷ (焼却施設の最高提案売電額 + バイオガス化施設の最高提案売電額) × 3 点

発電量・売電量の提案に基づき、上記配点より、焼却施設、バイオガス化施設それぞれについて最高提案売電額の提案者は満点とし、最高提案売電額の提案者以外については次のとおり得点化する。ただし、得点の最低点はゼロ点とする。

【焼却施設】

焼却施設の発電量・売電量の配点 - { (焼却施設の最高提案売電額 - 当該者の焼却施設の提案売電額) × 0.9 ÷ 10 }

【バイオガス化施設】

バイオガス化施設の発電・売電量の配点 - { (バイオガス化施設の最高提案売電額 - 当該者のバイオガス化施設の提案売電額) × 0.9 ÷ 10 }

※提案売電額は 18 年間の合計額とする。

(5) 価格審査

価格審査については、定量化限度額を設定するものとし、提案価格（税抜）を次の方法で得点化する。最低提案価格は、全ての応募者（失格者を除く）の提案価格のうち最低の提案価格をいう。

算定式① 【最低提案価格\geq定量化限度額の場合】
当該者の提案価格の得点 = (最低提案価格 / 当該者の提案価格) \times 50 点 (配点) ※得点は小数点第三位以下を四捨五入した値とする。

なお、定量化限度額については次のとおり設定するものとする。定量化限度額以下の提案価格を提示した応募者の提案価格の得点は全て 50 点とする。ただし、定量化限度額を下回る提案価格とすることを妨げるものではない。

算定式② 【最低提案価格 < 定量化限度額の場合】
<u>定量化限度額を、提案限度額のうち、本施設の設計・建設に係る対価相当分の 92.0%と運営に係る対価相当分の 85.0%の合計と設定する。(金額は非公表)</u>
(1) 提案価格 \leq 定量化限度額の実応募者 当該者の提案価格の得点 = 50 点
(2) 提案価格 > 定量化限度額の実応募者 当該者の提案価格の得点 = (定量化限度額 / 提案価格) \times 50 点 (配点) ※得点は小数点第三位以下を四捨五入した値とする。

(6) 総合評価及び最優秀提案者の選定

選定委員会は、非価格要素審査の得点及び価格審査の得点の合計（総合評価値）が最も高い提案者を最優秀提案者として選定する。なお、総合評価点の最も高い者が複数あるときは、非価格要素点が高い提案者を最優秀提案者とし、これも同点である場合は、複数の最優秀提案者を選定する。

第3章 審査の結果

1 参加資格審査

センターは、令和4年5月25日～27日において1グループから提出された参加表明書及び参加資格審査申請書類等をもとに、応募者が満たすべき参加資格要件及び業務遂行能力について確認し、令和4年6月3日付で参加資格審査結果（参加資格があるものと認めたもの）を応募者の代表企業に通知した。

なお、参加資格審査結果の通知時に、受付番号「緑」とすることを応募者に示し、選定委員会では構成企業名を伏せて審査を行った。

<参加グループの構成企業一覧>

受付番号	参加区分	企業名	役割
緑	代表企業	株式会社タクマ	<ul style="list-style-type: none"> ・プラントの設計・建設（焼却施設） ・プラントの設計・建設（バイオガス化施設） ・運営（焼却施設） ・運営（バイオガス化施設）
	構成員	クボタ環境エンジニアリング 株式会社 大阪支社	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の設計 ・建築物等の建設（建築工事） ・プラントの設計・建設（リサイクル施設） ・プラントの設計・建設（汚泥再生処理センター） ・運営（リサイクル施設） ・運営（汚泥再生処理センター） ・運搬（不燃物）
	構成員	株式会社タクマテクノス 西 日本支社	<ul style="list-style-type: none"> ・運営（焼却施設） ・運営（バイオガス化施設）
	協力企業	株式会社奥村組 関西支店	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の設計 ・建築物等の建設（建築工事）
	協力企業	株式会社材光工務店	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物等の建設（建築工事）
	協力企業	オオサワ株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物等の建設（土木工事）
	協力企業	株式会社オオバ 大阪支店	<ul style="list-style-type: none"> ・造成設計
	協力企業	株式会社鴻池組 京都支店	<ul style="list-style-type: none"> ・解体
	協力企業	株式会社ヴァイオス	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃汚泥等運搬 ・清掃汚泥等処理
	協力企業	太陽技建株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・運營業務（各施設に共通する維持管理業務等）

2 提案審査

1) 提案書類の確認

センターは、令和4年9月26日～28日に提案書類の受付を行い、応募者に求めた提案書類がすべて揃っていることを確認した。

2) 提案価格の確認

センターは、令和4年9月29日に応募者から提出された提案金額書に記載された提案価格が、提案限度額を越えていないことを確認した。

3) 基礎審査

センターは、応募者から提出された提案書類が、全ての基礎審査項目を満たしていることを確認した。

4) 非価格要素審査・価格審査

(1) 非価格要素審査

非価格要素審査を行う上で、応募者の提出した提案書の記載内容を明確にするために、応募者に対して提案内容についてのヒアリング（プレゼンテーション及び質疑応答）を令和4年11月16日に実施した。

その後、選定委員会にて十分な議論を行ったうえで、優先交渉権者選定基準に基づき各委員が5段階評価を行い、その平均値を得点として付与した。

地域への貢献、稼働実績件数、発電量・売電量については、優先交渉権者選定基準に記載の算定式により以下のとおり得点を付与した。

審査項目	配点	得点
① 地域への貢献	6点	3.34点
② 稼働実績件数	3点	3.00点
③ 発電量・売電量	3点	3.00点

非価格要素審査の結果は次頁、各審査項目の講評は第4章の1に示すとおりである。

なお、非価格要素審査の得点が失格判断基準の37.5点を上回ったことから、総合評価値の算出を行う。

□非価格要素審査結果

大項目	中項目	小項目	配点	受付番号：緑
1. 基本方針に関する事項			18点	10.65点
(1) 事業実施方針			3点	1.97点
	㊦事業実施方針と実施体制		3点	1.97点
(2) 地域との共生			15点	8.68点
	㊦地域との連携		3点	1.78点
	㊧地域への貢献		12点	6.90点
2. 設計・建設及び運営に関する事項			120点	76.99点
(1) 環境保全に配慮した安心な施設【快適性】			9点	5.72点
	㊦安心・安全な工事の実施	施設整備工事の実施	3点	2.06点
		解体撤去工事の実施	3点	1.97点
	㊧環境負荷の低減		3点	1.69点
	環境負荷低減		3点	1.69点
(2) 安全で安定的な稼働ができる施設【機能性】			51点	34.79点
	㊦安定稼働の実現	システム連携	12点	8.63点
		安定運転	12点	9.75点
		実績件数	3点	3.00点
		搬入搬出計画	12点	6.38点
		緊急トラブルへの対応	6点	3.56点
	㊧災害に強い施設整備	災害に強い施設	3点	1.69点
		災害・非常時への対応	3点	1.78点
(3) 循環型社会形成に貢献できる施設【環境性】			15点	10.50点
	㊦エネルギー・資源の有効利用	有効な発電計画	9点	6.56点
		資源化の促進	6点	3.94点
(4) 市民に親しまれる施設【好感度】			15点	10.03点
	㊦環境学習・啓発の推進	環境学習啓発機能	9点	6.47点
	㊧周辺環境との調和		6点	3.56点
	意匠・景観計画		6点	3.56点
(5) 経済性に配慮した施設【効率性】			30点	15.95点
	㊦経済性への配慮	ライフサイクルコストの低減	9点	4.50点
		センター実負担額の低減	9点	3.94点
		長寿命化計画	3点	1.88点
	㊧効果的な施設間連携の実現		9点	5.63点
	施設間連携計画		9点	5.63点
3. 事業計画に関する事項			12点	7.12点
(1) 事業の安定性及び長期収支の安定性			6点	3.37点
	㊦資金調達・長期収支計画		3点	1.78点
	㊧財務の健全性・安定性		3点	1.59点
(2) リスク管理			6点	3.75点
	㊦リスク管理		6点	3.75点
合計			150点	94.76点

(2) 価格審査

応募者の提案価格について、優先交渉権者選定基準に示す算出方法に基づき価格審査の得点を下記のとおり算出した。

□価格審査結果

	受付番号：緑
提案価格（税抜）	48,780,000,000 円
計算式	$(48,780,000,000 / 48,780,000,000) \times 50$ 点
価格審査の得点	50.00 点

5) 総合評価値の算出及び最優秀提案者の選定

非価格要素審査の得点到価格審査の得点を加算し、総合評価値とした。

総合評価値 = 非価格要素審査の得点 + 価格審査の得点

□総合評価値

	受付番号：緑
非価格要素審査の得点	94.76 点
価格審査の得点	50.00 点
総合評価値	144.76 点

以上により、「受付番号：緑」を最優秀提案者とした。

第4章 審査の講評

1 各審査項目の講評

1) 基本方針に関する事項 (18 点)

審査項目	審査講評
(1) 事業実施方針 (3 点)	
⑦事業実施方針と実施体制 (3 点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本事業の事業方針に加え構成市の環境方針を反映した上で施設の整備・運営に係る基本的な方針について適切な提案が示されている点を評価した。 ・ 事業実施体制として、各分野の実績豊富な企業で組成し、これまでの実績を活かした安定した事業実施についての提案が示されている点や代表企業が設計・建設、運営の事業全体を包括管理する提案が示されている点を評価した。
(2) 地域との共生 (15 点)	
⑦地域との連携 (3 点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成市の環境基本計画における重点プロジェクトを踏まえた地域連携の取り組みの提案が示されている点を評価した。 ・ EV充電ステーションの24時間年中無休での開放等、地域との連携について効果的な提案が示されている点を評価した。
④地域への貢献 (12 点)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築工事、造成工事及び運營業務に地元企業が参画するなど、地元企業を積極的に活用する提案が示されている点を評価した。 ・ 地元産機器・材料の活用や伝統行事への協賛等、地域貢献について具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。

2) 設計・建設及び運営に関する事項 (120 点)

審査項目	審査講評
(1) 環境保全に配慮した安心な施設【快適性】 (9 点)	
⑦安心・安全な工事の実施	施設整備工事の実施 (3 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接する農地・斎場、敷地に接する県道に配慮した具体的提案が示されている点を評価した。 ・ 稼働エリアと工事エリアの分離など工事中の具体的な安全確保の提案が示されている点を評価した。 ・ 施設整備工事の工程管理・工法について、社会情勢や軟弱地盤にも配慮した適切かつ具体的な提案が示されており、提案の効果に期待ができる点を評価した。
	解体撤去工事の実施 (3 点) <ul style="list-style-type: none"> ・ 騒音・振動・粉じん濃度について要求水準より厳しい自主管理値を設定するなど、周辺環境の保全性に配慮した効果的な提案が示されている点を評価した。 ・ 解体工事の工程管理・工法について、確実かつ効率的な提案が示されている点を評価した。

審査項目		審査講評
① 環境負荷の低減	環境負荷低減 (3点)	・ 独自技術の採用による燃焼制御や燃焼異常の最適化など、公害防止基準を遵守するための具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。
(2) 安全で安定的な稼働ができる施設【機能性】 (51点)		
⑦ 安定稼働の実現	システム連携 (12点)	・ 汚泥再生処理センターやバイオガス化施設を活かしたシステム連携により、複合的な効果を創出した提案が示されている点を評価した。特にシステム連携により焼却施設の炉規模を縮小する提案が示されている点を高く評価した。 ・ 各施設の排水や臭気の処理についてシステム連携を図った提案が示されており、提案の効果に期待ができる点を評価した。
	安定運転 (12点)	・ 安定稼働の継続について、豊富な実績を踏まえた効果的な提案が示されている点を評価した。特に様々な独自技術・最新技術の採用による安全かつ安定的な稼働実現についての提案が示されている点を高く評価した。 ・ バイオガス化施設について、国内最大の納入実績を踏まえたメタン発酵条件の維持、適正管理など独自の技術、工夫による提案が多く示されており、安定稼働を実現できる提案を高く評価した。 ・ 代表企業から選任された現場総括責任者をSPCへ配置、施設毎の実務経験者の配置など安定稼働に向けた適切かつ具体的な運転管理体制が示されている点を評価した。 ・ 点検・メンテナンス計画について、長期的な安定稼働を可能とするための具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。
	実績件数 (3点)	・ 各施設の稼働実績及び解体撤去工事において豊富な実績を有している点を評価した。
	搬入搬出計画 (12点)	・ 動線計画、渋滞対策として円滑な受付の実現や待車スペースの確保について具体的かつ効果的な提案が示されている点や効果的な受付精算システムの提案が示されている点を評価した。 ・ バイオガス化に適したごみを最大限活用するためのごみ選別方策について具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。
	緊急トラブルへの対応 (6点)	・ トラブル防止策について、想定されるトラブル事例毎に他施設での実績を踏まえた具体的な提案が示されている点を評価した。 ・ 緊急時の対応として、具体的な緊急時の管理・連絡・運転・指揮命令体制の提案が示されている点を評価した。
① 災害に強い施設整備	災害に強い施設 (3点)	・ 軟弱地盤への対策について妥当な工法や基礎構造についての提案が示されている点を評価した。

審査項目		審査講評
	災害・非常時への対応（3点）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後の安定稼働、早期稼働を実現するための具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。 ・災害廃棄物への対応について、大型廃棄物への対応等期待が持てる提案が示されている点を評価した。
(3) 循環型社会形成に貢献できる施設【環境性】（15点）		
㊦ エネルギー・資源の有効利用	有効な発電計画（9点）	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物エネルギーの最大限活用や省エネルギー化について具体的かつ効果的な提案が示されている点や要求水準を上回る高いエネルギー回収率の提案が示されている点を評価した。 ・運転計画最適化機能の活用など、年間売電収入の最大化（発電量の最大化及び所内消費電力の最小化）のための具体的な提案が示されている点を評価した。
	資源化の促進（6点）	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクル施設から回収される鉄類、アルミ類について要求水準を上回る純度、目標回収率の提案が示されており、提案の効果に期待ができる点を評価した。 ・資源物の回収について、新たな資源物の回収等、積極的な提案が示されており、提案の効果に期待ができる点を評価した。 ・最終処分量低減のための具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。
(4) 市民に親しまれる施設【好感度】（15点）		
㊦ 環境学習・啓発の推進	環境学習啓発機能（9点）	<ul style="list-style-type: none"> ・新施設における環境学習・啓発機能のコンセプトをより具現化した具体的かつ効果的な提案が示されており、提案の効果に期待ができる点を評価した。 ・新施設が地域の環境学習の場になるように地元企業との連携、環境学習イベント等環境プラットフォームとしての役割が示されており、提案の効果に期待ができる点を評価した。 ・多様な見学者の受入を可能にするための具体的かつ効果的な支援策の提案が示されている点を評価した。
	④ 周辺環境との調和	意匠・景観計画（6点）
(5) 経済性に配慮した施設【効率性】（30点）		
㊦ 経済性への配慮	ライフサイクルコストの低減（9点）	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的なごみ量の減少を見込んだ運転日数の設定により焼却施設の炉規模を縮小する提案や18年間のライフサイクルコストを低減する提案が示されている点を評価した。 ・独自技術の採用や施設間連携による用役使用量削減について具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。

審査項目		審査講評
	センター実負担額の低減（9点）	・センターが示す循環型社会形成推進交付金充当率の考え方を踏まえた上で、センター実負担額の低減（交付率拡大）を考慮した提案が示されている点を評価した。
	長寿命化計画（3点）	・長寿命化に向け多面的な方策が検討・提案されている点を評価した。 ・独自システムの活用による予防保全の実施等、長期安定稼働を実現するための具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。
④ 効果的な施設間連携の実現	施設間連携計画（9点）	・設備・機器の共有化や人員の合理的配置等、施設間連携による効率化、コスト削減策について、分割整備と定量評価をしたうえで具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。

3) 事業計画に関する事項（12点）

審査項目		審査講評
(1) 事業の安定性及び長期収支の安定性（6点）		
	㊦ 資金調達・長期収支計画（3点）	・金融機関による融資については、地元金融機関からのプロジェクトファイナンス手法を用いた実現性の高い資金調達の提案が示されている点を評価した。 ・資本金や出資構成、長期収支計画が適切であり有効な配当政策等の提案が示されている点を評価した。
	④ 財務の健全性・安定性（3点）	・多角的、複層的な視点による財務モニタリングの提案が適切である点を評価した。 ・資金不足発生時の対応策について具体的かつ効果的な提案が示されている点を評価した。
(2) リスク管理（6点）		
	㊦ リスク管理（6点）	・リスク管理計画について、大手リスクコンサルタントによる評価、事業特性を踏まえた保険付保など信頼性の高い計画である点を評価した。 ・運営にあたり、事業リスクの一元管理を目指した委員会設置や第三者を加えた信頼性の高いリスク管理体制の提案が示されている点を評価した。

2 審査の総評

本事業は、熱回収施設（焼却施設、バイオガス化施設）、リサイクル施設及び汚泥再生処理センター等の設計・建設及び長期にわたる運営を行うことを目的とするものである。

民間事業者に設計・建設及び運営を一括かつ長期的に実施させることにより、民間事業者の創意工夫が発揮され、財政負担の削減及び公共サービス水準の向上等が期待されることから、PFI方式での実施となった。

本事業への応募者は1グループであったが、グループを構成する各企業のこれまでの実績をもとにした独自のノウハウや技術が盛り込まれており、センターの要求水準を上回り、期待ができる提案内容が示されていた。提案書類の作成における努力に対して敬意を表するとともに、深く感謝申しあげたい。

選定委員会では、優先交渉権者選定基準に則り、各審査項目について厳正かつ公正に審査を行った。

審査の結果、株式会社タクマを代表企業とする参加グループ（以下、「タクマグループ」という。）を最優秀提案者として選定した。当該グループからは、設計・建設及び運営に関する事項をはじめ、優れた提案があった。

今後、タクマグループは、センターと事業契約を締結するための協議を行うこととなるが、センターの要求事項のみならず、提案された内容を確実に履行することが求められる。そのうえで、本事業をさらに充実したものとし、事業期間にわたって、安全で安定的な施設の稼働や地域との共生ができるように、タクマグループに対しては次の事項に留意して事業を実施されることを望みたい。

- 脱炭素化の取り組みを進め、二酸化炭素実質ゼロに大きく貢献する施設整備・運営を行うこと。
- 各施設の稼働開始時期を遵守するとともに、要求水準書及び提案内容を確実に履行すること。
- 提案事業内容の確実な実施、基本方針に則った事業展開を行うこと。特に、事業実施に当たっては、センターの意向を十分に取り入れること。
- 維持管理面やコスト面も考慮した上で、施設全体として可能な限り仕様の統一を図ること。
- 地域住民へ開放する設備について、より一層の利用拡大に努め、地域・地元との良好な関係を構築すること。
- 地元信頼される施設となるよう更なる工夫を図るとともに、地元人材、地元企業の活用可能な限り配慮すること。
- 解体工事については、市街地での工事であることを考慮し、周辺住民及び企業の安全確保と環境負荷低減に努めること。
- ガス発電機の排ガスについて適切な監視を行うこと。
- 受付システムについては、より一層のデジタル化を検討し、市民サービスの向上に努めること。
- 車庫棟、倉庫の配置については、諸条件の設定について精査し、センターと十分に協議を行うこと。特にセンター及びセンター委託業者の作業と搬入車両の安全性確保に十分配慮すること。

と。

- 一般搬入車の受入については、搬入時の安全対策の検証を行い、搬入車両の渋滞、荷下ろし時の混乱、貯留ごみのピット移送等について十分にシミュレーションを実施すること。また、今後の搬入の仕組みの変更等にも柔軟に対応すること。
- 近年問題となっているリチウムイオン電池対策について、社会情勢の変化に対応したりサイクルラインからの除去・回収を実現できる計画とすること。
- ライフサイクルコストの低減のため、より一層の発電・売電の向上を目指し、ボイラ蒸気条件の高温高压化について維持管理面を含めセンターと十分に協議を行うこと。
- 隣接する斎場からの景観についても十分に検証し、必要に応じて対策を講じること。
- 汚泥再生処理センターについては、将来的な受入量の減少を考慮して、処理設備能力の低減を図る方策について更なる検討を進めること。
- 循環型社会形成推進交付金の充当率の考え方について、センターと十分に協議を行うこと。また、交付金以外の制度について、センターの財政負担の軽減が講じられるようセンターと十分研究・検討して進めること。
- 今後の長期にわたる本事業のなかで、センターの財政負担の縮減に寄与すべく、更なる工夫や改良を講じていくこと。

最後に、事業期間を通じてセンターとタクマグループが良きパートナーとなり、地域との信頼関係を築くとともに、本事業は、湖北地域の脱炭素化に大いに貢献する事業として期待されるため、そのことを念頭におき、本事業を計画的かつ適切に推進することを希望する。

上記の配慮・要望事項について、契約の公平性を妨げない範囲において本事業をより良いものとするためにセンターと十分な協議を行い、真摯な対応に努め、今後の事業期間にわたり質の高い公共サービスを提供するよう期待する。